



美の起源 アートの行動生物学

渡辺 茂

著 渡辺 茂
発行 共立出版
B6判 / 164頁
定価 本体1,800円＋税
発行年月 2016年8月

わたなべ しげる
慶應義塾大学名誉教授。専門は実験心理学、神経科学。著書はほかに『鳥能力』（化学同人）、『情動の進化』（共編、朝倉書店）、『比較海馬学』（共編、ナカニシヤ出版）、『脳科学と心の進化』（共著、岩波書店）、*Emotions of animals and humans*（共編、Springer）、*Evolution of the brain, cognition, and emotion in vertebrates*（共著、Springer）など。

「美」というものについては、それが私たちの外に存在するという立場と私たちの中にこそある、という二つの立場があるように思う。実はこの二つは相互に作用している。美の進化的起源とは性選択を含む過去の環境によって美が形作られてきたことを意味する。もちろん、様々な文化進化がヒトの美意識を高度に洗練されたものにしたことは疑い得ないが、生物学的進化基盤があるならば、ヒト以外の動物にその萌芽を求めることは自然な発想である。

美は感性強化なのだが、動物に

とってヒトの創り出す美が強化効果を持つか、という問いと、動物が創り出すものが人にとって美と感じられるか、という問いは別のものである。美には刺激として弁別刺激特性と強化特性があり、それを作り出すためには運動技能が必要である。その行動は自己強化で維持されるが、作り出されたものは社会によって美として認められ、他者にとって強化効果を持たなくてはならない。この本はこのような立場から著者自身の実験を含めて様々な動物研究を平易に紹介したものである。



援助要請と被援助志向性の心理学

困っていても助けを求められない人の理解と援助

水野治久

監修 水野治久
発行 金子書房
A5判 / 224頁
定価 本体2,500円＋税
発行年月 2017年3月

みずの はるひさ
大阪教育大学教育学部教授。専門は学校心理学。著書はほかに『子どもと教師のための「チーム援助」の進め方』（金子書房）、『絶対役立つ教育相談』『よくわかる学校心理学』（いずれも編者、ミネルヴァ書房）、『教師のための問題対応フローチャート』（共編、図書文化社）、『教師のチーム力を高めるカウンセリング』（共編、ぎょうせい）など。

カウンセリングによる援助の必要性がある人ほどカウンセリングに繋がれない……学校、福祉、医療など対人援助サービスに関わっている方には思い当たる節があるのではないのでしょうか？

人生は課題とどう向き合うかが重要なテーマですが、自分で課題を解決できない場合、「助けて」と言えることが大事です。このテーマは被援助志向性・援助要請と言われていて我が国ではここ20年ほど研究が行われるようになってきました。本書は概念の説明から様々な援助場面での応用ま

で視野に入れ執筆されています。本書は、本邦初の対人援助領域の助けを求める意識や行動に注目した書籍です。日本国内のこの領域の研究者と実践者総勢24名の知恵を結集させました。この本の監修者として何よりも嬉しかったのは、この領域の世界的権威である豪州・キャンベラ大学教授のデボラ・リックウッド先生に序文を寄せて頂いたことです。

私たちは一人では生きていけません。上手に助けを求めて生きていく。本書の執筆者の共通の思いです。